

施設で暮らす女性を対象としたメイク事業

平成24年度独立行政法人福祉医療機構助成事業

4施設にて計22回、メイク講座を開催

【実施施設】 婦人保護施設 2か所 / 母子生活支援施設 2か所

【参加者数】 のべ118人

【メイク実施団体】 メンタルケアメイク21（化粧療法ボランティア団体）

現状

婦人保護施設、母子生活支援施設等の施設では、経済的自立に向けた支援、退所後の安全確保に向けた支援等が行われている。しかし、DVそのものが女性に与えた心身への傷の回復に向けたアプローチは、人員不足もあり、なかなかできてない。結果として、施設をなかなか退所できなかったり、退所後再び別の施設で暮らすことになる女性も、少なくない。



メイク事業

- ❁ 社会性を回復し、自己確認による安心が得られるセラピー的な効果
- ❁ 化粧によるリラクゼーションが、ストレスによりダメージを受けた脳の健康を回復させる効果
- 外見を装うことで、自分を確認し、納得のいく像に近づけていく



自分と向き合う
きっかけ

- ❁ 日頃ほとんど外出しない人が、メイク講座後身支度をして外出
- ❁ 入所から間もなく自分の殻に閉じこもっていた人がメイク講座をきっかけに職員や他の利用者と話せるようになる

心まで元気になれるような メイクを届けたい

メンタルケアメイク21 田島みゆき

2001年に発足したメンタルケアメイク21(MCM21)は、ご自身の力だけではおしゃれを楽しむことが難しくなった認知症高齢者・障害をお持ちの方々を対象に、都内近郊の高齢者・障害者施設、病院などで月数回、メンタルケアメイク（化粧療法）活動をおこなっています。高齢者施設ではレクリエーション、介護予防事業の一環として、障害者施設ではレクリエーションのほか就労支援や社会復帰支援の一環として行っているところもあります。2013年1月現在会員数41名。心まで元気になれるようなメイクを届けたい、という思いでMCM21は活動を行っています。

女性施設のメイクを引き受けようと思った理由

メイクをして周りのひとから「きれいになったね」と言われた時、「うれしい」と素直に思い、女性として「やっぱりきれいになるって楽しい」ことなのだと改めて気づいてもらうこと、そしてその気づきによって自分を愛おしく思う自己回復の場になりえるのなら。

女性に対するメイク事業で大切にしたこと

外見修正以上に自分をケアすることの大事さに光を当てて、それぞれの自己力を引き出しそれが自信につながるような内容・雰囲気づくりを大切に考えました。

メイク講座中は余計なことを一切考えず鏡に向かって、メイクを楽しんでもらう。「きれいになるって楽しい!」「きれいって褒められて嬉しい!」という思いを誰もが1度は体験できるような90分にしたいと思いました。

女性施設でメイク事業を実施してみたの感想

この講座を通して強く感じたのは、自分がどんなにたくさん褒めても、職員さんの声掛けにはかなわない、ということでした。いつも近くにいてくれる、そして女性たちのことを理解し女性たちの幸せを心から願っている職員さんが、きれいだと認めてくれて、心は満たされる、つまり職員さんのフィードバックがあってそこではじめてココロに効くメイク講座の完成になる、ということでした。講座を通して職員さんと女性たちの結びつきを強く感じました。

これからやっていきたいこと

就労支援につながるよう マナー学も含めたメイク講座。